

安全データシート

1. 製品および会社情報

製品名 モノタロウ チャック付き袋
会社名 株式会社 MonotaRO
所在地 〒660-0876 兵庫県尼崎市竹谷町 2-183 リベル 3 階
担当者名 商品お問合せ窓口
電話番号 0120-443-509
FAX 番号 0120-289-888
緊急連絡先 所在地と同じ
整理番号 M170523

2. 組成および成分情報

プラスチックバッグは、低密度ポリエチレン及び直鎖状低密度ポリエチレン樹脂でできた製品である。

化学成分名 低密度ポリエチレン及び直鎖状低密度ポリエチレン樹脂
化学式 $(-\text{CH}_2-\text{CH}_2-)_n$
属名 ポリオレフィン
CAS 番号 9002-88-4
異名 LDPE
有害成分 なし

3. 危険有害性の要約

危険有害情報 生産の最中に特別な注意は必要なし。
廃棄フィルムは滑りやすいため、生産場所における作業者等への注意が必要。
乾燥した状態でフィルムに摩擦を加えると、静電気が起きる。

安全データシート

4. 応急措置

吸入した場合 製品の物理的構造から、日常の取扱手順の中での吸入や誤飲の可能性は非常に低い。煙を吸いこんだ場合については、セクション5を参照。

皮膚に付着した場合 溶けた製品で火傷をした場合は直ちに医師の手当てを受けること。

5. 火災時の措置

プラスチックバッグは引火性ではないが、燃えると刺激性のあるガスが放出される。さらに、溶けたポリマーは、引火性や爆発性のある物質の近くで発火することがある。

自動発火温度 >300°C

発火した製品

製品が発火すると、直火で燃えた場合は、水、二酸化炭素を放出し、酸素が欠乏している場合は一酸化炭素を放出する。さらに、発火した製品は刺激性のあるガスを放出する。

消火剤 水、水ノ泡、二酸化炭素

	燃焼	消火剤	方法
プロセス	バッグ・フィルム	水・泡	スプレーして冷却
保管	バッグ	水・泡	スプレーして冷却
輸送	貨物自動車・パレット ばら積み貨物	水・泡 水・泡	スプレーして冷却 火災側を覆う

緊急時の措置

煙を吸い込んだ場合、すぐに空気の新鮮な場所に移し、冷えない様にする。患者が寒くならないようにし、可能であれば人工の呼吸器をつける。すぐさま医師の手当てを受ける。

ケガをした皮膚や着ている服は流水で冷やす。溶けたプラスチックで火傷している場合は、医療関係者のアドバイスを受けてプラスチックを取り除くこと。

安全データシート

6. 漏出時の注意

人体に対する注意事項 セクション 8. 皮膚・目・手の保護参照。

環境に対する注意事項 地上水や衛生的な下水道システムに流さないこと。

廃棄する製品は環境内に廃棄してはならない。セクション 13 参照。

清掃方法 掃き集めて廃棄用の適切な容器に入れる。

予防措置 溶けた製品が肌についた場合は多量の水で冷却すること。

固化した製品を取り除こうとしないこと。肌からポリマーをはがそうとしないこと。

7. 取扱いおよび保管上の注意

取扱いおよび保管の手順には特別な要件は求められないが、フィルムはその特性と通常生産を維持するために乾燥した涼しい場所に保管し、特にフィルムの表面に水分の凝縮が起こらないようにする。室温は 40°C、相対湿度は 80%を超えてはならない。直射日光は避ける。また、火の入った加熱炉、蒸気パイプライン、その他の熱源がフィルムの近くにならないようにする。さらに、生産機械からフィルムを取り外したら、その後の使用は 24 時間待つこと。生産の最中にフィルムを摩擦することによって静電気が生じることがあり、関連する特別な保護措置（静電気防止措置）が求められる。作業者がフィルムを扱う場所に危険なガスが充満することがあるので、特別な注意を払うこと。また、廃棄フィルムは滑りやすいのでその都度回収すること。

8. ばく露防止および保護措置

手の保護 熱く溶けた物質を扱う場合は耐熱手袋を着用する
(例：押出機の清浄時)

目の保護 熱く溶けた物質を扱う場合は耐熱マスクを着用する
(例：押出機の清浄時)

肌および身体の保護 エプロン、ブーツや保護スーツは強制着用ではないが、
取扱う者の判断で着用する。

安全データシート

9. 物理的および化学的性質

製品の特質

物理的状態	固体（+20℃で）
形状	長方形その他
色	無色、透明
臭い	弱いプラスチック
PH 値	情報なし
相対密度	0.910～0.940g/m ³
融点・融解範囲	104～115℃

軟化点・軟化領域	90℃～160℃
水への融解度	不溶性物質
体積導電率	低、静電荷の危険

安全特性：

熱分解温度	>300℃
自動点火温度	>300℃

10. 安定性および反応性

プラスチックバッグは化学反応性が高くない。しかし、ある条件可では危険な反応性が出ることもある。

避けるべき状態

加工（処理）温度	300℃を超えないこと
長期の露出	75℃より高い温度に長期露出させない。紫外線に露出させない。
安定化	なし

安全データシート

11. 有害性情報

急性毒性	なし
局所的影響	なし
慢性毒性	なし
感作	なし
特異的効果（発がん性、 変異原性、催奇形性、昏睡性）	なし

12. 環境影響情報

可動性	なし
持続性・分解性	非常に低い紫外線分解性
生物蓄積	なし
生態毒性	プラスチックバッグが環境に有害と示すものはなし
水生毒性	不溶性非毒性固形物質

不用品の廃棄が適切に行われる場合は環境への負の影響はなし。プラスチックバッグにはカドミウム、鉛、水銀、六価クロムといった重金属は一切含まれない。

13. 廃棄上の注意

プラスチックバッグおよび包装材料は、毒物学上や環境上の危険は示していない。燃焼は管理された方法で行い、廃棄は埋め立て、または食物に適用しないリサイクルで行うことができる。

安全データシート

14. 輸送上の注意

一般の注意	輸送中は乾燥を維持する。
特別な注意	特に注意はなし。 国連推奨によれば、プラスチックバッグは輸送における危険物には分類されない

15. 適用法令

各国および地域に該当する政府の部門を通じてさらに適用法令が求められることがある。
REACH 情報 製品の REACH に関連する情報に関しては、販売代理店にお問い合わせください。

16. その他の情報

当該情報は、製品安全要件の標準的な評価として誠実に提供されていますが、法的な義務として提供されているものではありません。ここでは、いかなる形においても保証が意図されるものではありません。詳細をお求めの場合は、製品特性の技術関連情報をご参照ください。